

授業科目 音声学

【担当教員名】 大石 如香	対象学年	1	対象学科	言語
	開講時期	後期	必修選択	必修
	単位数	2	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】				
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎				
【概要・一般目標：GI0】 言語聴覚士として必要な音声学の知識を習得する。				
【学習目標・行動目標：SB0】 1. 音声学とはどのような分野かを理解する。 2. 調音の場所や方法について記述する。 3. 第1次, 第2次基本母音を理解する。 4. 日本語の分節的側面(母音、子音)について理解する。 5. 日本語の超分節的側面(アクセントなど)について述べる。 6. 音韻論と音素論				
回数	授業計画・学習の主題		SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	音声と音声学、調音器官の構造と働き		1, 2	
2	単音とその算出, 子音の分類方法		2, 4	
3	IPAにおける肺臓気流子音 1		2, 3	
4	IPAにおける肺臓気流子音 2		2, 3	
5	子音におけるさまざまな特徴と, 喉頭・硬口蓋気流子音		2, 4	
6	母音の分類方法		2, 4	
7	母音におけるさまざまな特徴		2, 4	
8	現代共通日本語の単音		2, 4	
9	音節とモーラ		5	
10	日本語の超分節的側面側面 1 (アクセント)		4	
11	日本語の超分節的側面側面 1 (イントネーション, リズム)		4	
12	日本語の超分節的側面側面 2 (ポーズ, 速さ, 強調)		5	
13	日本語のサウンドスペクトログラム		5	
14	音素と音素論		6	
15	まとめ		1 ~ 6	
【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)	日本語音声学入門【改訂版】	齋藤純男	三省堂	2007・2,000円＋税
参考書	言語聴覚士のため基礎知識 音声学・言語学	編集 今泉 敏	医学書院	2009・3,800円＋税
その他の資料				
【評価方法】 成績は定期試験, 小テストの点数および出席, 授業態度を加味し評価する。		【履修上の留意点】 インターネット上の IPA モジュールを参照することを勧める。		